

## 研究成果の刊行に関する一覧表

- 1) 神谷育司、白岩義夫、加藤実、内堀さつき:極小未熟児の予後に関する研究—知能検査結果の分析—。日本教育心理学会第25回発表論文集、1983
- 2) 白岩義夫、神谷育司、加藤実、内堀さつき:未熟児の行動発達Ⅲ—未熟児の知覚に関する予備的研究—。日本教育心理学会第25回発表論文集、1983
- 3) 神谷育司、白岩義夫、加藤実、内堀さつき:未熟児の行動発達Ⅳ。—(1)未熟児センターでの母子対面の継続的観察—。日本教育心理学会第47回発表論文集、1983
- 4) 白岩義夫、神谷育司、加藤実、内堀さつき:未熟児の行動発達Ⅳ。—(2)目かくしが児の行動に及ぼす効果—。日本教育心理学会第47回発表論文集、1983
- 5) 神谷育司:未熟児の対人認知に関する研究Ⅰ.問題提起。日本心理学会第48回大会発表論文集、1984.
- 6) 内堀さつき:未熟児の対人認知に関する研究Ⅱ.ストレンジ場面における対人認知行動について。日本心理学会第48回大会発表論文集、1984.
- 7) 岡村佳子:未熟児の対人認知に関する研究Ⅲ.事例的研究—未熟児の行動発達—。日本心理学会第48回大会発表論文集、1984.
- 8) 白岩義夫、加藤実:未熟児の対人認知に関する研究Ⅳ.男女成人の呼びかけに対する応答性。日本心理学会第48回大会発表論文集、1984.
- 9) Shiroiwa, Y., Ogawa J.: Activity, cardiac and respiratory responses of blindfolded Preterm infant in NICU. Ablex publishing corporation, April 6, 1984.
- 10) 小嶋謙二郎:こころの発達。からだの科学, 増刊3号, 日本評論社, 1985.
- 11) 加藤忠明, 高橋悦二郎, 網野武博, 丸尾あき子, 湯川礼子, 加藤則子, 小林登:新生児・乳幼児の発育・発達に関する日米比較研究(第1報)。日本総合愛育研究所紀要, 20:87~91, 1984.
- 12) 加藤忠明, 高橋悦二郎, 水上啓子, 樋口のぞみ, 小林登:聴覚刺激への胎児の記憶に関する研究。日本総合愛育研究所紀要, 20:93~96, 1984.
- 13) 加藤忠明:母子相互作用の考え方。子どもの看護, 1(2):12~16, メディサイエンス社, 1985.
- 14) 加藤忠明, 小林登:乳児の行動科学的研究。東京医学92(3):231~234, 1985.
- 15) 加藤忠明, 高橋悦二郎, 他:新生児・乳幼児の発育・発達に関する日米比較研究(第2報)。日本総合愛育研究所紀要, 21:印刷中, 1985.
- 16) 加藤忠明, 網野武博, 丸尾あき子, 他:健康な乳児の発達に関する重回帰分析。小児保健研究、投稿中.
- 17) 高橋滋, 馬場一雄, 他:未熟児におけるエア・マットレスの影響。日本新生児学会雑誌, 21(3)661~664, 1985.
- 18) Shigeru, Takahashi, Kazuo, Baba, et al: Supplemental Stimulation of preterm neonates. The Nihon University Journal of Medicine, 27(6), 1985.
- 19) 前川喜平:新生児と母子相互作用。助産婦雑誌, 38(6), 1984.
- 20) 前川喜平:Failure to Bear Weight in Vertical Suspension—Prospective Study of 78 Infants—。Acta Paediatrica Japonica, 26(3), 1984.
- 21) 前川喜平:乳幼児の発育の特性。小児科診療, 47(10), 1984.
- 22) 前川喜平:Sucking response to taste and infant temperament. Jikeikai Med. J., 31(2), 1984.
- 23) 前川喜平:Breast feeding and neonatal behavioral state. Jikeikai Med. J., 31(4), 1984.
- 24) 副田敦裕, 他:乳児の気質と発達に関する研究—1~2ヵ月児用行動様式質問紙の標準化—。慈恵医大誌, 99(5), 1984.

- 25) 副田敦裕,他:乳児の気質と発達に関する研究—乳児の気質と母児因子の相関について—。慈恵医大誌, 99(5),1984.
- 26) 横井茂夫,他:乳児の気質に関する研究—乳児用行動様式質問紙の標準化—。慈恵医大誌,100(5),1985.
- 27) 横井茂夫,他:乳児の気質に関する研究—乳児の気質と母児因子について—。慈恵医大誌,100(5),1985.
- 28) 前川喜平:母乳栄養の新生児行動に及ぼす影響。ペリネイタル・ケア,4(14),1985.
- 29) 室岡一:周産期の母子相互作用。高知母性衛生学会総会,1983.
- 30) 室岡一:子宮内音と児のResponse。日本新生児学会雑誌,17巻,1981.
- 31) 室岡一:妊娠期間中の母子相互作用。発達,(4),ミネルヴァ書房,1984.
- 32) 室岡一:胎児期の母子相互作用。周産期医学,13(12):2133,1983.
- 33) 室岡一:ベビースイミング。小児科診療,49(1):51,1986.
- 34) 雨森良彦:Pedoscopeによる新生児の重心点に関する研究。第87回日本小児科学会,1984.
- 35) 雨森良彦:新生児の姿勢制御に関する基礎的研究。第87回日本小児科学会,1984.
- 36) 雨森良彦:Pedoscopeによる新生児の出生後の重心及びactivityの推移に関する研究。第26回日本小児神経学会,1984.
- 37) 雨森良彦:新生児の仰臥位および腹臥位における重心図学的研究。第26回日本小児神経学会,1984.
- 38) 雨森良彦:Pedoscopeによる新生児の姿勢制御に関する研究。第20回日本小児新生児学会,1984.
- 39) 平沢彌一郎:新生児の姿勢制御。周産期医学,13(12):1938,1983.
- 40) 平沢彌一郎:足のはなし。ペリネイタル・ケア,4(6):669,1985.
- 41) 池田由子:被虐待児症候群。現代のエスプリ,(9),1984.
- 42) 田村健二,池田由子:児童虐待調査報告。日本児童問題調査会,1984.
- 43) Yoshiko, Ikeda:Child abuse in Japan. Child Welfare, 5(2),1984.
- 44) 池田由子:児童虐待と皮膚症状。日本小児皮膚科学会誌,4(2),1985.
- 45) 池田由子:児童虐待調査統計。精神衛生研究,(33),1986.
- 46) 石井威望,岩田洋夫:濃淡画像による顔の表情の自動認識。第29回情報処理学会,1984.
- 47) 石井威望,岩田洋夫:顔面サーモグラムの自動認識。第31回情報処理学会全国大会講演論文集Ⅱ,1985.
- 48) 石川憲彦:子育ての社会学。朝日新聞社,11月10日,1985.
- 49) Itani, J.:Inequality versus equality for coexistence in primate societies. Absolute Values and the New Cultural Revolution,1983.
- 50) Huffman, M.:Stone-play of *Macaca fuscata* in Arashiyama B Troop:Transmission of a non-adaptive behavior. J. Human Evolution,13(8),1984.
- 51) Itani, J.:The Evolution of primate social structures. Man, in print, 1985.
- 52) 金 有淑:精神遅滞児を持つ母親の不安に関する研究。特殊教育学研究,投稿中.
- 53) 糸魚川直祐:ニホンザルの母子関係。周産期医学,13(12):1849,1983.
- 54) 糸魚川直祐:ニホンザル集団の歴年変化—岡山県勝山の場合—。大阪大学人間科学部創立十周年記念論集,大阪大学人間科学部,1983.
- 55) 糸魚川直祐:ニホンザルの母と子。親と子の絆—学際的アプローチ—,日本生命財団,1984.
- 56) Itoigawa, N.:Sexual Behavior in Japanese Monkeys. XXIII International Congress of Psychology Abstract,1,1984.
- 57) Itoigawa, N. et al.:Affective Determinants of Occurrence of Copulatory Behavior in Isolation-Reared Japanese Monkeys. Spence, J.T. & Izard, C.E. (Eds.), Motivation, Emotion, and Personality. Proc-

- eedings of XXIII International Congress of Psychology, North-Holland, 1985.
- 58) 糸魚川直祐:サルの子はいかに育つか,人間との比較. 新しい子ども学1 育つ,海鳴社,1985.
- 59) 糸魚川直祐:サルのコミュニケーション. 子どもの看護,1(5);20~24,1985.
- 60) 井上義朗:青年期の親準備性. 小児科診療,46(10), 1983.
- 61) 井上義朗,深谷和子:青年の親準備性をめぐって. 周産期医学,13(12);2249,1983.
- 62) 大島清:助産婦雑誌,(1)|医学書院,1985.
- 63) 大島清:胎児からの子育. 築地書館,1983.
- 64) 林基治,大島清:Neurosci. Res. 1.p.427~436,1984.
- 65) 林基治,大島清:Brain. Res. 364(1986)360~368, Elsevier,1986.
- 66) 加地はるみ,田角勝:新生児の睡眠に及ぼす明暗の影響. 新生児学会雑誌,22(3),1986.
- 67) 加藤翠:母親の就労と子育ての両立の研究調査から. 児童研究,64(5),1985.
- 68) 加藤翠:共働き子育て. 小児医学,19(1);掲載予定.
- 69) 柳道子,加藤翠:わが国の最近10年間における共働き子育ての報告文献についての考察(第1報). 児童育成研究,投稿中.
- 70) 兼子和彦:分娩経過に影響する妊婦の心理的要因. 助産婦,38(10),1984.
- 71) 兼子和彦:新生児と母子結合. ペリネイタル・ケア 4(9),1985.
- 72) 水上啓子:妊婦の精神的要因の分娩経過及び出生した児の新生児期行動におよぼす影響について. 日本新生児学会雑誌,22(1),1986.
- 73) 馬場テツ,大野マチ子,兼子和彦,水上啓子:出生順位と新生児期行動の関係について—NBASを用いた検討—. 母性衛生,25(4),628,1985.
- 74) 水上啓子,塚原晶子,馬場テツ,大野マチ子,兼子和彦:母子分離場面における12ヵ月児の行動—妊娠末期及び産後12ヵ月時の母親の神経症的傾向との関連での検討—. 日本小児保健学会第32回講演集,1985.
- 75) 森永良子:イヌの母子行動. 子どもの未来科学,同朋舎,1983.
- 76) 森永良子,岡野恒也:犬にみられる母仔相互作用. 周産期医学,13(12);1865,1983.
- 77) 森永良子:人の子犬の子—母と子の相互作用の心理学—. どうぶつ社,1985.
- 78) 黒川徹:小児科医からみた育児学(第1回). 教育と医学,34(1),1986.
- 79) 近藤潤子,堀内成子,内山芳子,押尾祥子,堀川彰子:帝王切開分娩における母子相互作用に関する研究(第1報)—帝王切開分娩産婦の心理に関する文献的考察—周産期医学,16(4);599,1986.
- 80) 小崎武,鈴木榮:家族関係自己診断目録(FRI)の小児心身症診療への応用. 思春期学,日本思春期学会,1984.
- 81) Yoshida, M., Lowry, L., Liu, J. J. C., Kaga, K.: Auditory 40-Hz responses in the guinea pig. Am. J. Head & Neck Surgery. in press, 1985.
- 82) 鈴木淳一:学童・生徒の場合—慢性中耳炎—. 南山堂,1985.
- 83) Kaga, et al.: Auditory short, middle, and long latency responses in acutely comatose patients. Laryngoscope, March, 1985.
- 84) Kaga, et al.: The Auditory pathology of brain death as revealed by auditory evoked potentials. Ann. Neurol. Sep, 1985.
- 85) 鈴木良次,曾我部正博:遺伝子と文化の相互進化. ヒューマンサイエンス, 5; 1~32, 1984.
- 86) 曾我部正博,宮本健作:オタマジャクシの密度効果と個性. 文部省科学研究補助金(総合A)研究成果報告書, 16-23, 1984.
- 87) Yamaji, N., Sokabe, M.: Growth inhibition and melanogenesis in *Xenopus* tadpoles rearad in crowded condition. Dobutsu seiri, 1, (4); 168, 1984.
- 88) Fukabori, A., Sokabe, M. and Miyamoto, K.: Conspecific recognition in larvae of *Xenopus laevis* and *Rana nigromaculata*. ibid. p198, 1984.

- 89) 曾我部正博:オタマジャクシの個性. 幼児開発,(6), 68-73,1985.
- 90) 曾我部正博:下等動物のコミュニケーション—オタマジャクシの密度効果と血縁認知— 子供の看護, 1(5):15-19,1985.
- 91) Fukabori, A., Sokabe, M.: Sibling association and visual association in larvae of *Xenopus laevis*. *Dobutsu seiri*, 2(4):189,1985.
- 92) 詫摩武俊, 他:幼稚園児をもつ母親たちの発達期待に関する研究. 人文学報, 東京都立大学人文学部, 1985.
- 93) 竹内 徹:新生児のコミュニケーション. 子どもの看護, 1(5), 1985.
- 94) 竹内 徹:新生児期・乳児期初期における母子相互作用. 新しい子ども学1育つ, pp.131-157, 海鳴社, 1985.
- 95) 寺脇 保, 他:約50年前の離島における親子相互関係. 周産期医学, 13(12), 2311, 1983.
- 96) 木場道子:南西諸島の母子関係の研究. 医学研究, 55(4), 1985.
- 97) 利島 保, 武村一郎, 中邑賢龍, 藤井京子:自閉症の認知過程に関する神経心理学的アプローチ. 広島大学教育学部紀要, 第1部32巻151-161, 1985.
- 98) 利島 保:妊産婦の母性形成過程. 周産期医学13(12), 2129, 1983.
- 99) 藤井京子:移行対象の使用に関する発達の研究. 教育心理学研究, 33(2), 1985.
- 100) 井上充, 小柳孝司, 原賢治, 進岳史, 中原博正, 中野仁雄:電子スキャンによる胎児眼球運動の観察(第1報). 日超医論文集, 42:625, 1983.
- 101) 井上充, 小柳孝司, 原賢治, 進岳史, 中原博正, 中野仁雄:電子スキャンによる胎児眼球運動の観察(第2報). 日超医論文集, 46:267, 1985.
- 102) 井上充, 原賢治, 中原博正, 堀栄一, 進岳史, 小柳孝司, 中野仁雄:胎児眼球運動と排尿の関連に関する検討. 日超医論文集, 47:123, 1985.
- 103) 南風原幸子, 長畑正道:子供を代理としたMunchausen症候群. 小児の精神と神経, 25(1):19-25, 1985.
- 104) 夏山英一, 塩田浩平:ヒト胚子・胎児の行動エコーグ
- 105) ラフによる観察とその発生学的意義. 医学のあゆみ, 135(4):295-301, 1985.
- 106) 塩田浩平, 夏山英一:ヒト胎芽・胎児の発育と胎内行動. *Medical Way*, 3(1):82-86, 1986.
- 107) 南部春生:子どもの健康増進対策. 北海道教育実践研究会編, 北海道教育評論社, 1985.
- 108) 南部春生:心身症診療の実践—小児科の立場から—. 北海道医学雑誌, 60(4):475, 1985.
- 109) 畠山富而:育児理論の実験行動. 新小児医学大系, 28 育児学, pp. 35-55, 中山書店, 1985.
- 110) 畠山富而:母子相互作用. 岩手医誌37(2):165-181, 1985.
- 111) 畠山富而:家庭・学校の役割. 子どもの肥満, 有斐閣, 1984.
- 112) 香取淳子:テレビとお話. 新しい子ども学, 第2巻, 海鳴社, 1986.
- 113) 馬場優子:自然・文化・子ども. 新しい子ども学, 第3巻, 海鳴社, 1986.
- 114) 原ひろ子:多様な文化の中から. 新しい子ども学, 第3巻, 海鳴社, 1986.
- 115) 二木武, 川井尚, 帆足英一, 他:小児の発達栄養行動. 医歯薬出版, 1984.
- 116) 庄司順一, 帆足英一, 二木武:妊娠・出産・育児と精神障害—乳児院の事例から—. 乳児発達研究会発表論文集, 第7号, 1985.
- 117) 庄司順一, 恒次欽也, 川井尚, 二木武, 他:妊娠期の母子関係(4)—SCT-PKS男性版からみた妊婦の夫の心理—乳児発達研究会発表論文集, 第7号, 1985.
- 118) 恒次欽也, 庄司順一, 川井尚, 二木武, 他:妊娠期の母子関係(5)—SCT-PKS男性版の数量化第Ⅱ・Ⅲ類による統計的分析—. 乳児発達研究会発表論文集, 第7号, 1985.
- 119) 庄司順一, 恒次欽也, 川井尚, 二木武, 他:妊娠期の母子関係(9)~(11). 第32回日本小児保健学会, 1985.
- 120) 武谷雄二, 水野正彦:産褥期母乳中のprolactinの変動ならびにその生物学的propertyの検討. 日本産科婦人科学会誌, 9:1477, 1984.
- 121) Taketani, Y., Mizuno, M.: prolactin in human milk

- and its biological properties. *Obstet & Gynecol.* submitted.
- 122) Taketani, Y.: Studies on PRL in human milk. *Endocrinol. Jap.* in press.
- 123) 武谷雄二: 乳腺発育の内分泌的調節. 臨床婦人科産科, 39(3), 1985.
- 124) 武谷雄二: 産褥性機能の変化. in *Obstetrics DATA BOOK*, 産婦人科の世界, 1985.
- 125) 三宅和夫, 陳省仁: Relation of temperamental disposition to classification of attachment—a progress report. Annual Report 1983~84, Research & Clinical Center for Child Development Hokkaido University, Vol 7. 北海道大学教育学部付属乳幼児発達臨床センター, 1985.
- 126) 石川丹, 南出江津子: Correlation between fetal activity and the neonatal behavioral assessment scale. *Early Child Development and Care*, 17, pp. 155~160, Gordon and Breach Science Publishers, Inc. (UK), 1984.
- 127) 三宅和夫: 子どもの気質と発達. *子どもの看護*, 1(2) 1985.
- 128) 三宅和夫: Relation of Infant Temperamental Disposition to Attachment Classification: Comparisons of the Results Obtained from Two Independent Samples. Annual Report 1984~85, RCCCD, Faculty of Education, Hokkaido University, 北海道大学教育学部付属乳幼児発達臨床センター, 1986.
- 129) 金谷有子, 三宅和夫: The Relation between Maternal and Infant Interactional Characteristics and Later Attachment as Assessed in the Strange Situation. Annual Report 1984~85, RCCCD, Faculty of Education, Hokkaido University, 北海道大学教育学部付属乳幼児発達臨床センター, 1986.
- 130) 中野茂, 臼井博, 三宅和夫: Individual Differences in Responses to Unfamiliar Objects at 23 Months of Age. Annual Report 1984~85, RCCCD, Faculty of Education, Hokkaido University, 北海道大学教育学部付属乳幼児発達臨床センター, 1986.
- 131) 山内逸郎: 匂いと味と母子相互作用. *周産期医学*, 13(12):1927, 1983.